

式 辞

柔らかな春の日差しを受け、萌葱色の新芽が芽吹き始める今日の佳き日、御来賓の皆様のご臨席を賜り、愛媛県立東予高等学校第六十二回卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことは、大きな喜びであります。御臨席を賜りました全ての皆様に、心から厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました四十八名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、これまでお子様を大切に慈しみ、成長を支え、励まし続けてこられた保護者の皆様に深く敬意を表しますとともに、今日の日を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

今、卒業生の皆さんの胸には、東予高校での様々な思い出がよみがえっていることでしょう。楽しかったことや嬉しかったこともあれば、辛かったこと、悲しかったこともあったと思います。そういった経験を一つ一つ積み重ね、皆さんは日々成長してきました。だから、自信を持って、思いやりの心とたくましく生きる力で、これからの人生を歩んで行ってほしいと思います。

今年度の運動会のスローガンを覚えていますか。「千紫万紅 ～未来へ繋ぐ最終章～」、このスローガンには、一人一人の個性と力が輝く運動会を協力して作り上げ、東予高校の「最終章」を彩り、来年度開校する東予総合高校に本校の伝統を繋げようという皆さんの熱い思いが込められていました。その思いは、本日、皆さんの卒業を祝い、同席している後輩たちが引き継いでくれると確信しています。

皆さんは、3年間、工業高校という専門性の高い環境で、多くの知識や技術を身に付けてきました。そのことを称えるとともに、これから歩む道ではどれだけの知識を身に付けたかよりも、それをどう使うかという視点の方が大事だということを、この卒業の日に伝えたいと思います。

——グライダーと飛行機は遠くから見ると、似ている。空を飛ぶのも同じで、グライダーが音もなく優雅に滑空しているさまは、飛行機よりも美しいくらいだ。ただ、悲しいかな、自力で飛ぶことができない。——

これは外山滋比古氏の「思考の整理学」の一節です。現在、主体性、自主性を養うことの意義がしきりに論じられていますが、彼はもう四十年も前にそのことに言及していました。与えられた知識や指示をそのまま受け取るだけでは、人はグライダーのままです。知識をもとに自ら問いを立て、新しい課題に挑み、解決へ向かうとき、初めて自分のエンジンで飛ぶ飛行機になれるのです。

皆さんが工業高校で取り組んできた実習や課題研究、仲間との協力は、その力を養う大切な経験でした。試行錯誤を重ね、話し合い、形にしてきたことで、皆さんは自分のエンジンを作り上げてきたのです。

現代社会はただ既存の知識を正しく記憶しているだけでは通用しません。生成 AI や機械が膨大な情報を瞬時に処理する時代だからこそ、人間には人と関わり、協力しながら価値を生み出す力が必要です。就職して社会に出る人、進学する人、それぞれの道は違います。しかし、どの道に進んでも、受け身ではなく、「なぜ」「どうすれば」と問い続ける姿勢が皆さんを成長へと導いてくれます。

どうか、追い風を待つグライダーではなく、自らの力で飛び立つ飛行機として、大きく羽ばたいてください。機体の姿も、飛ぶ高さも、進むスピードも、皆さんそれぞれ異なりますが、自分自身のエンジンで飛び続ければ、皆さんの飛ぶ空はこれからどんどん広がっていくでしょう。

「ああ新しき地平線 我らが前に展けたり」

自分の力を信じ、仲間と協力しながら未来を切り拓いていく皆さんを、私たち教職員全員で応援しています。卒業生の皆さんに、幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和八年三月一日

愛媛県立東予高等学校長 檜垣 知美